

### 第3回旧吉田茂邸再建検討委員会結果概要

〔日 時〕平成21年6月24日（水）午後7:00～午後8:00

〔場 所〕大磯町役場4階委員会室

〔出席者〕

（委員長）中島委員（遺産保存会副会長）

（副委員長）岩崎委員（学識経験者）

（委員）土方委員（区長連絡協議会会長）、  
三上委員（区長連絡協議会副会長）、  
新宅委員（商工会副会長）、鈴木委員（観光協会副会長）、  
大澤委員（観光協会副会長）、吉川委員（中丸町内会長）、  
宮代委員（ガイドボランティア協会会長）、  
清田委員（教育委員会委員長）、関野委員（学識経験者）、  
大倉委員（学識経験者）、永嶌委員（学識経験者）

（事務局）8名

（傍聴人）1名

#### 1 開会

##### （1）あいさつ

###### ア 委員長あいさつ

- ・ 民間主導による全国からの募金受付については、前回の第2回委員会で6月23日（火）から開始することとして決議し、段取りを進め、NHKをはじめとするマスコミ各社から取材の問い合わせもあった。
- ・ しかしながら、先週末に、当委員会からは、私中島委員長、岩崎副委員長、重田委員の3名と議会側との話し合いの場が設けられ、そこで、詳しくは後ほどご説明するが、私としては事態が良い方向に展開したと感じているが、急な事態の展開があり、時間的な余裕がなかったこともあって、委員のみなさまのご相談をせずに、募金の口座開設を見合わせる対処をさせていただいた。このことについてお詫び申し上げます。

#### 2 議題

##### （1）寄附金の受け皿について

###### ア 説明

（事務局）

- ・ 6月22日（月）に、町議会の全員協議会（吉田茂邸再建特別委員会の拡

大会議)が開かれ、急遽7月1日(水)に大磯町議会臨時会が開催され、議員提案により基金条例案が提出される見通しとなった。

(委員長)

- ・ 当初、民間主導による全国からの募金受付は、6月23日(火)から開始することとして当委員会で決議したが、7月1日(水)までは1週間しかない。当委員会の委員長と副委員長が議会側と話し合いの場を持ったことは、先ほどあいさつでもお話したが、そこで相談して、寄附者の方に混乱を招かないためにも、民間募金の口座開設を見合わせる対処をさせていただいた。
- ・ 諸般の事情で4月中には寄附金の受け皿をつくることができなかったが、6月16日(火)の当委員会の決議を受けて、民間募金を6月23日(火)から開始するという報道もされた。6月16日(火)の委員会には、議会特別委員会の委員長も傍聴してくださり、民間で募金活動が始まる動きや、県でも7月には再建の構想案が出てくる見通しがあること、民間ではふるさと納税の適用もなく特典も設けにくい状況などを総合的に勘案し、議会特別委員会の委員長として何としてもこの状況を打開したいとの意志で、町の理事者立会いの下、6月19日(金)の夜に話し合いの場を設けていただいた。
- ・ 話し合いの内容としては、当初7月7日(火)に大磯町議会臨時会を開くという提案だったが、我々としてはそれでは遅いと主張し、最終的には議会特別委員会の委員長の決断で、その場で町議会議長と連絡をとり、最終的には議長の意向を確認して、7月1日(水)に臨時会を開催することとなった。
- ・ また、条例成立については見通しだけで民間募金を見送るには根拠として不十分であるため条例成立の担保が欲しいと申ししたところ、議会特別委員会の正副委員長から納得できる説明をいただいた。委員のみなさまには事前のご相談をせずに決めてしまったことをお詫びするが、以上の経緯から、民間募金の開始を見送ることとした。
- ・ 6月22日(月)に町議会の全員協議会(拡大会議)を開いて、7月1日(水)に大磯町議会臨時会を開催し、議員提案により基金条例案が提出されることとなった。これを受けて、同日午後3時から、町議会議長、議会特別委員会の正副委員長、当委員会の正副委員長が合同で緊急記者会見を行った。6月23日(火)からの民間募金開始に向けて取材の段取りを進めていたマスコミ各社に混乱を招き、私委員長としてはお詫びしなければいけない立場だったが、町による寄附金の受け皿が7月後半から7月1日(水)に繰り上げられたことは、日程的にも区切りが良く、状況としては好転したと感じている。委員のみなさまにはお詫びするとともに、ご了解をいただきたい。  
記者会見では、条例案が可決されたわけではないので、当初民間募金の開始については凍結という表現を使っていたが、マスコミからはそれでは決意

が伝わってこないという意見もあり、中止という表現を用いた。

この件に関して何かご質問があればお願いしたい。

## イ 意見交換

(委員)

- ・ 4月の基金条例案もまさか否決されるとは思っていなかったが、今回は大丈夫なのか。

(委員長)

- ・ 旧吉田茂邸再建の議会特別委員会の構成員は6名であるが、その内訳は、4月の条例案に賛成した議員3名と反対した議員3名で構成されている。
- ・ 前は1票差で否決という結果になったので、今回は、旧吉田茂邸再建の議会特別委員会から議員提案されることを踏まえると、単純計算では3票が反対から賛成に回ることとなり、通過することは間違いないということで、記者会見の席でもマスコミから議会側に対してしつこく質問がなされていた。

(委員)

- ・ 本件については、委員のみなさま了承ということで良いか。  
→ 了承

## (2) 旧吉田茂邸の再建について

(委員長)

- ・ 前回の委員会では、旧吉田茂邸の再建については、委員のみなさまのご意見について私の考えを強引に話してしまったが、今回はお一人お一人のご意見をいただき、最終的に提言書をまとめたいと思う。

(委員)

- ・ 基本的には、焼失前の吉田茂邸を再建して欲しい。それに加えて、県民が利用できるスペースがあったら良いと思う。

(委員)

- ・ 基本的には、焼失前の吉田茂邸を再建して欲しい。また、大磯町民が活用できる場所を作ってもらえることが出来れば良いと思う。

(委員)

- ・ 建物は、以前のように木造で再建して欲しい。予算の関係もあるし、食事を控えるべきだという意見もあったが、友達が来たときなどに使える場所があったら良いと思う。普通のホテルなら何処にでもあるので、個性のある活用ができれば良いと思う。

(委員)

- ・ 観光協会の視点から述べると、記念碑だけとか、中身はコンクリートで外

見だけ木造というのでは最悪だと思う。従来の建物を再建できればより良いと思う。いかに吉田邸の色を出すか、薔薇園や飲食もできると良いと思う。なにしろ吉田邸を再建して欲しい。

(委員)

- ・ 再建後の建物の中に配置する調度品など吉田茂の思い出の品が集まると良いと思う。

(委員長)

- ・ 本邸焼失時に他の場所で保管していた調度品や複製した調度品も、財政面に余裕があれば備えることができると思う。

(委員)

- ・ 焼失前と全く同じ状況で再建することが原則。
- ・ 連絡橋に関しては、相当お金がかかるようだから、本邸でお金が必要ということであれば、連絡橋のお金を再建費用にまわせば良いのではという意図で述べた意見。
- ・ 建物の中央部分は事務管理スペースではなく展示場所にしたら良いと思う。事務管理のスペースをどうしても設置するというのなら、最小限の規模にして欲しい。

(委員)

- ・ 建物の再建自体に反対はしていないし、できるなら再建して欲しい。ただ、中身とか構造が観光城によいにならなければと心配している。焼失前に再建出来れば良いと思う。

(委員)

- ・ 将来的には文化財保護の指定が受けられるような再建を目指して欲しい。木造で、形もできるだけ元通り再建して欲しい。
- ・ また、沢山の人数は入れないかも知れないが、町民が集会で使えるスペースがあれば良いと思う。

(委員)

- ・ 県立都市公園なので、ああして欲しいとかこうして欲しいとか強く主張はできないが、希望ということで、可能な限り構造・規模ともに元どおりの再建に取り組んで欲しいと思っている。
- ・ 保存活動の際に 51,868 名の署名を集めた原本が商工会議所に保存してあるそうだが、これを展示できるスペースができれば良いと思う。

(委員)

- ・ 建築基準法の課題をクリアするのは難しいと思うが、庭園からの美しい姿は是非再現して欲しい。以前、吉田茂邸を活用した企画を行った時、邸園文化の核となる施設になると良いなと思っていた。ただ吉田邸を見学するだけ

だと、1回見ただけで再び訪れてくれる方は少ないと思う。リピーターを集められるような文化的活用、近代政治を学ぶ歴史的な活用、薔薇園の講座や先生を招いた各種講座などができるような、50人～100人集まれるような利用ができれば、観光の目玉にもなると思う。

(委員)

- 本邸と旧邸の部分について、考え方を区分したらどうかと思う。
- 本邸は、吉田茂が過ごした空間を体感できる部分として絶対再建していく。
- 部屋毎にパネルや説明機器を設置するのはいかがなものか。本邸は元のままの姿を忠実に再現するべきで、そうしたものは必要ないと思う。
- 旧邸については、外観はできるだけ焼失前の姿を残し、内部はできるだけ多くの方が入れるスペースを確保し、調度品の陳列や研修施設として利用し、地域交流を図る場所として、自由性をもたらしたらどうかと思う。

(委員長)

- 当委員会から町長に提出する提言書は、議会から提出される意見書の内容と斟酌して、大磯町の意見として県に対して提出されることになる。したがって、我々の意見がそっくりそのまま大磯町の意見になるということは難しいかも知れないが、たたき台は抽象的な表現になっていて、今委員のみなさまからいただいた意見はある程度含んだ内容になっていると思う。
- 核としては、できるだけ元どおりに再建し、調度品も配置して欲しいというところで、これが我々の希望である。

(委員長)

- 提言書の表のページに、「部屋毎に往時の写真やその部屋のエピソードを盛り込んだ歴史説明文字パネルと音声ガイド機器を設置する」とあるが、あんまりペタペタ説明板を貼り付けて雰囲気損ねるのもいかがかと思う。こうしたものは最小限に留めた方が良くないか。個人的には、吉田茂関係の資料館がこの建物とは別にあっても良いのではないかと思う。
- ここの部分は削除することよろしいか。  
→ 異議なし

(委員)

- 今の部分の続きに、『金の間』、『銀の間』及び『食堂』については、・・・時間貸しできるような利活用」とあるが、「銀の間」は寝室でベッドが置いてある場所なのに、この部屋を貸すということに違和感を覚えるがいかがか。

(委員長)

- 2階の居間部分は吉田茂が日米首脳会談ができるようにつくったところだと記憶している。「金の間」と「銀の間」の区別はどうだったか。

(事務局)

- ・ 「銀の間」は寝室でベッドが備えられていた部屋。富士を望める眺めの一番良い部屋である。

(委員長)

- ・ 今の段階では細かい利用ゾーンまで言及する必要もないので、「『金の間』、『銀の間』及び『食堂』については、」という部分も削るということによろしいか。

→ 異議なし

(委員長)

- ・ 提言書の内容については今日のところはこの程度とし、次回6月30日にまとめて最終的な承認をいただくということによいか。

→ 異議なし

(委員長)

- ・ 以上で第3回旧吉田茂邸再建検討委員会を閉会する。

### (3) その他

- ・ 次会は6月30日(火) 19:00~21:00 大磯町4階委員会室で開催します。